



全労生・事務局長  
西澤 昇治郎

全国労働組合生産性会議（全労生）は5月14日、第1回中央委員会を開催し、年間活動統一テーマ「発展のため原点回帰の生産性運動」とともに「活動における基本認識」に基づき2013年度活動方針を確認した。

全労生は50周年宣言の具現化をめざした運動展開の指針（ガイドライン）に基づき活動

を展開し4年目を迎える。現在取り組んでいる専門部会の諸調査・研究活動は、論点整理を経て課題や対応策の議論段階にある。今後これらの取り纏め・提言にあたっては、労働側のみならず経営側にも提起し、議論に供することができると発信努力が求められている。また、真の生産性運動の理解促進活動については、組織的な展開とともに、関係諸組織・団体への働きかけが課題となっている。

一方、わが国経済が直面する最大の課題は、東日本大震災の復興・再生とともに、疲弊した国内市場の回復とデフレの脱却をはかり、イノベーションを促進し持続的成長に繋げることにある。そのため、働くすべての人々が生きがい・働

きがいを持って安心して働ける労働環境をつくり出すことである。その源泉は、人の力で

2013年度活動方針を確認

人の力生み出す三原則の体現へ、労使の建設的協議と実践を！

あり集団的労使関係に立脚した生産性運動である。全ての産業・企業労使は、生産性三原則の基本に立ち返り、

「人」の力を引き出し現場力・総合力を高め、トータルとして豊かな生活を表現するために、智慧を出し、汗をかき建設的なの労使協議を徹底して行う必要がある。

点である「人間性尊重・相互信頼・全員参画」の視点を大切に、構成産別労組・各地方労組生産性会議（関西労働政策委員会）、各生産性機関および日本生産性本部との連携を強化し運動を推進する。そして、諸活動の着実な実践を通じて労働生産性運動の発信力を高め、運動の裾野の広がりを求めていく。

◇主要活動課題  
・真の生産性運動の理解促進活動の着実な推進  
・生産性三原則の体現に向けてすべての職場における労使協議の確立・拡充  
・社会的対話づくりとワーク・ライフ・バランスの着実な推進  
・全労生組織の強化  
・拡大と活性化

全労生はこれらの認識のもとに、運動の原点をおよび各生産性機関（部会長・野中孝泰）との連携強化  
・教育・啓発活動の充実と労組生産性運動の発信力強化  
・事務局体制・機能の充実  
皆様のご理解とご支援、そして積極的な参画を改めてお願い申し上げます。

【活動報告】

- 4月24日 第1回幹事会（議長・神津里季生）
- 5月14日 第1回中央委員会（議長・神津里季生）
- 6月13日 第2回組織・広報部会（部会長・藤川慎一）
- 7月28・29日 第2回幹事会（議長・神津里季生）
- 7月29日 第2回労働政策部会（部会長・相原康伸）
- 7月31日 第2回調査部会（部会長・野中孝泰）